

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上においては、校内研究の取組を中心に、「主体的に学習に取り組み、学びを生かす児童生徒の育成」を意識した共通実践を行った。一人一授業の取組を行い、児童生徒の自ら考え、学びを生かす姿を追究し、手立てを工夫し、授業改善に生かした。 ・心の教育においては、いじめの早期発見、早期対応体制の充実を図ることができた。また、未然防止対策では、職員のローテーションによる講話やスクールカウンセラー・外部講師による講演会、さらには特別の教科道徳の授業等に全職員で取り組んだ。成果として昨年度、いじめ、問題行動等発生件数0であった。今後も本年度の取組を継続していく中で、生徒の人権意識を向上させる。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進においては時間外勤務時間の目標は達成できたが、タイムマネジメントの意識が低かった。今後もアイデアを共有し、タイムマネジメントを意識した業務効率化をさらに推進する。 ・個に応じた教育の充実においては、一人一人に応じた教育活動を実施し、全職員で生徒が安心して学校生活を送ることができる環境づくりを行った。今後も取組を充実させる。
2 学校教育目標	ふるさと松梅を担う心身ともに調和のとれた生徒の育成
3 本年度の重点目標	① 社会に開かれた教育課程の実現 ② 学校運営協議会制度を生かした小中一貫教育の推進 ③ 安心・安全な学校づくり（集団に不適応を起こしている生徒への対応）

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度（評価）		学校関係者評価		
				達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○「自ら考え、学びを生かす児童生徒の育成」のために、主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりの推進	○2学期以降の実力テストにおいて、全ての教科の得点の平均が、前年度の平均点を上回る。 ○生徒アンケートにおいて、「めあてを意識しながら、授業の振り返りをする事ができたか」及び「苦手なことを克服するために、自主学習で自分なりに工夫して取り組んだか」の項目に対して肯定的な回答をする生徒が80%以上。	・すべての教科において、「自ら学び、考えを活かす生徒の姿」を実現するための手立てを工夫する。 ・めあてとふりかえりの徹底 ・知識・技能に特化したスキルタイムを継続し、基礎基本の定着を図る。	B	・生徒アンケートにおいて、「めあてを意識しながら授業の振り返りをする事ができたか」に対して、80%以上の肯定的な回答を得られた。また、「そう思う」と答えた生徒が8%上昇した。 ・「苦手なことを克服するために、自主学習で自分なりに工夫して取り組んだか」に対して前期と同程度の67%の結果しか得られなかった。今後、現在の取組に加えて、苦手克服のために自主学習が重要であることを、生徒に指導していく必要がある。	B	・めあてを意識した学習に取り組むことができている傾向があるので、自主学習の取組に反映されるとよいと思った。 ・自主学習の取組は、苦手なものを克服するだけでなく、自分の力を伸ばす学習を考える機会になるとよいと思った。 ・「将来の夢」や「郷土愛」にもつながることだと思うが、子ども自身の自主性をもっと高められたらいいと思う。言われたことだけやって、それしかやらないという子どもにならないように。 ・小さな学校なので、競争心があまりないと思うが、基礎がしっかりついていけばよいと思う。	学力向上コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権についての話を聞くことで、「人権を尊重することを心がけるようになった」に肯定的な生徒80%以上	・社会科と学年が連携しながら部落問題学習を実施する。 ・ふれあい集会で、「いじめ・いのち・人権」に関する講話を教職員が行ったり、ローテーションによる道徳授業を行ったりする。 ・問題解決的な学習などを取り入れた「考え、議論する道徳」の実現。	A	・生徒アンケートにおいて、「ふれあい集会等で人権についての話を聞くことにより、自分の考えをもち、人権を尊重することを心がけている」に対して、肯定的な回答が91%だった。毎月行うことで、より一層人権に対する意識が高まると考えられる。 ・校内研究での教職員アンケートにおいて、回答者全員が、「道徳科の授業で、子どもが自分で考えたことを表現したり、自分事として考えたりするために工夫をしている」と回答した。	A	・中間評価80%から最終評価91%にあがっており、成果が見られる。 ・今後も個人を尊重できる心を養ってほしい。	人権・同和教育 道徳教育
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教職員80%以上 ●Q-Uテストで学校生活不満足群の割合が全国平均以下	・月に1度「心のアンケート」を行い、全教職員に回覧し、情報共有する。 ・毎月「生徒指導・校内支援協議会」を開き、目指す子ども像にむかって適切な指導・支援が行われているか確認する。 ・生徒指導教育相談部会を毎週、いじめ防止対策委員会を適宜開き、情報の共有や対応を協議する。 ・保健室来室時に健康相談を行い、担任と情報を共有する。	A	・いじめ防止対策の取組として、毎月の生徒指導協議会での全職員での共通理解、毎月の「心のアンケート」の実施など、適切な取組を行った。また、日頃から、生徒にきめ細い指導を行った。学校評価アンケートで、「いじめの未然防止、早期発見、早期対応のための他職員の連携して組織的な取組を行っている」に肯定的な回答をした教職員は100%だった。 ・Q-Uテストでは、学校生活不満足群は全国平均以下であった。	A	・先生方のご尽力で、学校が安心できるものになっていると思う。 ・ベストを尽くされた結果が見てとれる。	生徒指導 教育相談
●心の教育	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」に肯定的な回答をする生徒80%以上	・各学年ごとのキャリア教育を計画・実施し、夢ノートとつなげることで、夢や目標を立てて逆向き設計の意識を育てる。 ・各行事や総合的な学習の時間の中で、具体的な目標や見通しを持たせる。 ・地域について考える取組や内容を積極的に取り入れる。	B	・総合的な学習の時間で学んだことをまとめたり発表したりする取組の中で、地域について前向きに考える機会を通して、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」に肯定的な回答をした生徒が約75%にまで増えた。 ・学校評価アンケートで、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒は94%に増え、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒は68%と少し減少した。	B	・夢や目標をもつことは、家庭環境や育ちによっても差はあると思われるが、取組は評価する。 ・総合的な学習で地域について深く考える機会をこれからも大切にしたい。	キャリア教育 総合的な学習
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」 ●「健康を考えて行動できる能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ●「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童生徒80%以上	・各種集会等で交通安全についての話を行う。また、外部機関と連携し、交通安全教室や交通安全に関する講話を実施する。 ・保健体育の授業で、健康についての学習を行い、健康の意義と必要性について学ばせる。また、健康について学習したことを活かすことができているかのアンケートを学習後に行う。	A	・「安全に関する資質・能力の育成」について、交通安全教室の実施、保健体育の授業において、交通安全の防止等の授業を行った。このことにより、生徒の交通事故件数0(ゼロ)であった。 ・「健康を考えて行動できる能力の育成」については、毎月のほけん日よりの呼びかけや保健体育の授業「食事と健康について」で学ばせることができた。「健康は何より大切だ」と学習したことを自分の生活に活かしている」に肯定的な回答をした生徒79%だった。 ・毎日朝食を食べている生徒は86%、食の大切さを理解している生徒は92%と高い割合であった。	A	・健康は食と運動している。人との関わりにも影響があると思われる。交通安全指導においても自分を大切にすることにつながると思う。 ・子どもはまず健康な体づくりを一番にしてほしい。 ・食育は松梅の場合、畑でできた農作物を食したり、成長過程を見ている子どもたちなのでよいと思う。	保健 体育
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○「タイムマネジメントを意識して業務改善に努めた」職員80%以上	・月曜日のノーマルデー、定時退勤日を勵行する。 ・定期的に業務効率化についてのアイデアを共有し、意識の向上を図る。	A	・時間外在校等時間の上限を遵守できた職員は、8月～11月の4ヶ月で80%だった。 ・11月アンケートにおいて「タイムマネジメントを意識して業務の効率化を図り、時間外勤務の削減に努めた」教職員は84%で、成果指標を達成できた。	A	・工夫し、努力されていると思う。 ・無理のない改善を行ってほしい。	教頭
●特別支援教育の充実	○個に応じた支援の充実	○一人一人の特性について、他の教員と共通理解のもと合理的配慮を提供することができたと回答した教員80%以上	・特別支援に関する研修会の実施。 ・一人一人の特性等に応じた合理的配慮の提供。	A	・11月アンケートでは、「職員同士の共通理解のもと一人一人の特性に応じた合理的配慮を提供できた」にすべての教職員が肯定的な回答をした。 ・年間6回の全職員対象の研修会を実施することができた。	A	・向上心をもって取り組まれている姿が素晴らしい。 ・生徒の見守り、支援をこれからも行ってほしい。	特別支援教育

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度（評価）		学校関係者評価		
				達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○郷土愛にあふれた心豊かな子どもを育てる道徳教育の研究	○授業力の向上 ○小中連携の取組 ○家庭・地域との連携	○学校評価アンケートで「道徳の授業や先生方の話から、自分の考えを広くしたり自分自身を直したりしている」に肯定的な生徒80%以上。 ○自作の道徳アンケートで、「向上心・個性の伸長」「希望と勇気・克己と強い意志」「郷土の伝統と文化の尊重・郷土を愛する態度」の項目に肯定的な生徒が80%以上。 ○学校評価アンケートで、「学校は、ふれあい道徳や道徳通信を通して、学校で行っている道徳教育をわかりやすく伝えている」に肯定的な保護者が80%以上。	・主体的・対話的で深い学びを実現する手立ての工夫 ・一人一授業(同時期に同じ内容項目の授業)を行い、授業研究会を行い、研鑽を深める。 ・共通実践事項の徹底 ・道徳通信を2ヶ月に1回発行 ・ふれあい道徳の実施 ・地域教材の開発 ・実態把握のためのアンケート作成	B	・生徒アンケートにおいて、「道徳の授業や先生方の話から、自分の考えを広くしたり自分自身を直したりしている」に対して、肯定的な回答が85%だった。 ・校内研究のアンケートで、「向上心・個性の伸長」については、心情が95%、判断が93%、「希望と勇気・克己と強い意志」については、心情が46%、判断が61%、「郷土の伝統と文化の尊重・郷土を愛する態度」については、心情が61%、判断が74%と良好な回答だった。前期同様、意識としては良好だが、道徳的心情や判断の向上までは至っていないことがわかる。「向上心・個性の伸長」の判断については、大きな伸びが見られた。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、ふれあい道徳や道徳通信を通して、学校で行っている道徳教育をわかりやすく伝えている」に対して、肯定的な回答が97%だった。	A	・全職員で努力されている。 ・郷土の伝統と文化を大事にしたい。 ・道徳通信を見と、工夫されていることがよくわかる。引き続き頑張ってもらいたい。 ・先生と生徒がタッグを組んで、いろいろな問題に全力で取り組んでもらえること小さな学校がいい形で生きると思う。地域はこれからも守ってきたい。	道徳教育

●...県共通 ○...学校独自 ○...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・学力の向上においては、学力調査等の分析をもとに、共通実践を行った。児童生徒の自ら考え、学びを生かす姿を追究し、手立てを工夫し、授業改善に生かした。 ・心の教育においては、いじめの早期発見、早期対応体制の充実を図ることができた。また、未然防止対策では、職員のローテーションによる講話や外部講師による講演会、さらには特別の教科道徳の授業等に全職員で取り組んだ。成果として今年度、いじめ、問題行動等発生件数0であった。今後も本年度の取組を継続していく中で、生徒の人権意識を向上させる。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進においては時間外勤務時間の目標は達成できた。また、タイムマネジメントの意識も向上した。今後もアイデアを共有し、タイムマネジメントを意識した業務効率化をさらに推進する。 ・今年度から研究指定を受け、重点取組として行っている道徳教育の研究には、講師を招聘しての研修や、一人一授業の取組等を行い、職員の資質・能力が向上し、生徒の意識の向上につながった。また、保護者にも取組を周知することができ
----------------	---